

2003-2004



岐阜中週報

Lend a Hand

手を貸そう R.I.会長 ジョナサン B.マジアベ

会長	森 益 男
幹事	長 井 義 夫
発行者	ウェブ 委員会
委員長	篠 田 泰 成
例会	毎週火曜日 12時30分
会場	岐阜ルネッサンスホテル
事務局	岐阜市神田町 2-2
	電話 264-9235 番

平成 15 年 10 月 28 日(火)
第 543 号
第 619 回例会

会長挨拶

副会長 松井 順五

先日の連休に、4組の同級生夫婦で、軽井沢へ旅行をしてみました。年に数回旅行をしたり食事をしたりの付き合いが30年程続いております。今回は我々の還暦の祝を兼ねた旅行でしたが、御婦人方の希望で、北軽井沢を中心に、文化の香の高い施設をめぐるという主旨で旅をしてみました。訪れた数々の施設のうち、軽井沢高原文庫という、数人の文人の別荘や、山荘を移築集合したのがありました。これは、秋の日が木洩れる雑木林の中に本館を中心に、堀辰雄山荘、野上弥生子の書斎、有島武郎別荘、浄月庵、立原道造詩碑、中村真一郎詩碑などがありました。これらの施設が紅葉の始まった雑木林の中に点在する様は誠に素晴らしいものでした。

本館には、谷川俊太郎展が行われておりました。ここで感動をおぼえた、二つの詩にふれましたので、紹介させていただきます。

一つは谷川俊太郎自筆の色紙に書かれたものです。

はなのののはな
はなのなにあに
なずななのはな
なもないのばな

この詩が彼独自の書体で、ひらがなのみで書かれており、ほのぼのとした気持ちにさせてくれました。

もう一つは雑木林の中に透明なアクリル板の中に白い文字で書かれた中村真一郎の詩でした。題名は「夏野の樹」

光を浴びて野中の樹
緑に燃えて金の絵散らし
しじまの凍る真昼時
大地の夢を高く噴き出し

白いお前の歌の中
優しく匂ふ乙女の生肌
明日は記憶の眠る暮
茂みの髪は永遠の夜中だ？

酔はせよ、遠い時を解き

堅い乳房に青い日含み
流れよ、重い葉の動き
吹き上げのやう愛の波生み
光を浴びて野中の樹！

ロケーションと詩が、これほどマッチした詩碑に初めてめぐり合い、年申いもなく、いたく感動をおぼえました。



友情と奉仕の灯を スマイルボックス委員会

伊藤 善男君

長女の結婚披露宴、無事終えることが出来ました。ホットしています。有難うございました。

前例会の記録

平成15年10月21日(火)

[点鐘] 12時30分

[ソング] それでこそロータリー

[ゲスト]

[ピジター]

[出席] 会員総数 42名

(出席免除0名、猶予0名)

本日出席 24名 57.14%

[行事] 会長挨拶・食事・幹事報告・
委員会報告・ニコボックス報告

[卓話] 『健康診断』

担当 出席委員会

次回予定 第620回

平成15年11月4日(火)

[点鐘] 12時30分

[行事] 健康診断について

担当 出席委員会